

## 2022年度（令和4年度）第1回 福山市環境審議会 議事概要

### 1 日時等

日時：2022年（令和4年）9月2日（金）

13:00～15:00

場所：福山市役所6階 60会議室

### 2 出席委員

西村和之 会長，中井智司 副会長，青山進 委員，生田政代 委員，小川智弘 委員，  
川上富美子 委員，澤田結基 委員，辻和夫 委員，寺澤恵美 委員，平田教至委員，八杉光乗 委員

### 3 欠席委員

岡部真智子 委員，栗田貴生 委員，佐々木伸子 委員，園尾俊昭 委員

### 4 議事

- (1) 第二次福山市環境基本計画の改定について
- (2) アンケート調査について

### 5 議事要旨

- 事務局から，委員定数の半数以上が出席していることを確認した。
- 会議は公開で行われた。
- 委員の互選により，会長に西村委員，副会長に中井委員が選任された。
- 市長から，第二次福山市環境基本計画の改定について諮問された。
- 事務局から，第二次福山市環境基本計画の改定について説明を行い，質疑応答を行った。
- 事務局から，アンケート調査について説明を行い，質疑応答を行った。

#### （意見の概要）

##### 第二次福山市環境基本計画の改定について

- 資料3-1の1ページ目に「関連事業者と連携する中で，カーボンニュートラル実現の引き金となる施策」と書かれてあるが，具体的な施策を検討しているのか。
- ⇒アンケート調査の際に，事業者や特定排出事業者から課題や取組を聞き，追加的な施策について検討する。カーボンニュートラルポートに関し，産業部門をはじめとした民間企業と連携する中で取組を考えていく。ブルーカーボンのような，温室効果ガスを吸収する取組を展開している地域もある。
- 排出抑制や吸収の促進の両面で検証して欲しい。

○福山未来エナジー(株)の電力供給事業の実績について、2019年度(令和元年度)と比較し、2021年度(令和3年度)では、施設数が増加している一方で、温室効果ガス削減効果が減っているのはなぜか。

⇒削減効果については、福山未来エナジー(株)が供給する前の電力会社と福山未来エナジー(株)の排出係数(1kW当たりの温室効果ガス排出量)の差を基に算定している。各電力会社において排出係数が年々改善しているため、削減効果が圧縮されている。

○家庭部門の削減目標について、2030年度(令和12年度)の排出量を2013年度(平成25年度)比で3分の1に減らす大胆な目標が設定されているが、どのような施策を検討しているのか。

⇒計画を見直す中で、地球温暖化対策協議会や環境審議会の意見も踏まえながら、追加的な施策を検討していきたい。太陽光発電や蓄電池等に対する支援を検討しているところである。

○比較的小さな地区であれば、マイクログリッドを利用することによって送電ロスが少なくなる。他のアイデアも含めながら検討する必要があるのではないか。

○家庭部門でのエネルギーの地産地消について、福山市ではどのような検討をしているのか。

⇒今年度、再生可能エネルギーのポテンシャル調査を実施する予定。国の「REPOS」や福山市の「3D都市モデル(project PLATEAU)」を用い、精度の高いポテンシャルを算出する調査を実施している。また、次期ごみ処理施設に発電設備を設ける予定であり、発電した電力を福山未来エナジー(株)が活用し、エネルギーの地産地消率を高めていくことを検討している。

○資料3-1の「2050年カーボンニュートラルを基本とする」という表現について、福山市が2050年に向けてゼロカーボンシティをめざしていくことを表明するということか。

⇒様々な企業や団体と意見交換をしていく中で、福山市に先導してほしいという意見があれば、積極的に宣言する。

○SDGsと2050年カーボンニュートラルについて、環境基本計画に盛り込むのか。

⇒福山市全体でSDGsの視点を持った施策を展開する動きがある。環境分野についても、SDGsが重要であることから、計画に盛り込んでいく。2050年カーボンニュートラルを基本としているので、表現を計画の中に盛り込んでいく。

○産業部門とはどのように意見交換をしていくのか。

⇒地球温暖化対策協議会に様々な事業者が参加しているため、協議会の中での意見を踏まえ、個別に取組状況などの聞取りを行う。中小企業の省エネ施策の展開や再エネの導入について議論していく。

○海洋プラスチックの問題について、何か検討しているのか。

⇒海洋プラスチック問題は、昨今の環境問題において重要な課題と考えている。今年度は、先行して温室効果ガスに関する事項について審議し、来年度、基本目標2から基本目標5について審議する。

○現行計画では、施策に関連するSDGsについての記載があるが、考え方が逆ではないか。もう少し踏み込んだ形で変えていく必要があるのではないか。

⇒SDGsの位置づけについて、意見を伺う中で検討していく。

#### アンケート調査について

○福山市の施策の内容について、リーフレットやホームページを紹介するなど、分かりやすい工夫をすべきである。

⇒分かりやすい資料があれば同封する。

○2050年カーボンニュートラルの宣言やSDGsの機運の盛り上がりなど、これまでと外部環境が変わっている。その流れの中で福山市も取り組んでいるという話にできないか。設問の中で、2050年カーボンニュートラルのような規模の大きい問題から聞くのはどうか。

⇒取り巻く環境が劇的に変わっていることを踏まえ、設問の構成について検討する。

○アンケートは、周知・啓発的な意味合いを含むため、言葉のトーンや最初のリード文などで、現在の状況について知ってもらえるような書き方にしたらどうか。

○資料4-1の3ページの間4の後に「環境保全に取り組む中で、不明な点や分からないことはありますか」という設問を入れてはどうか。

⇒不明点や疑問点は、今後の取組において参考になるので、アンケートに追記する。

○小学生や中学生には、「何か環境問題で知りたいことや学んでみたいことがありますか」などの設問をアンケートに入れておくと、興味を持っていることについて統計が取れるため、学校教育に還元できるのではないか。

⇒環境問題で知りたいことや学んでみたいことの設問をアンケートに追記し、学校教育に還元できるようにする。

○「達成するために民生部門で45%削減するのであれば、あなたの生活はこんなことになるのですが、それをできると思いますか」のような、踏み込んだ設問を入れることで、「達成するのにかなり努力しなければいけないのか、それなりに簡単にできるのか」という判断を事業者に促すための資料にもなるのではないか。

⇒設問の追加について検討する。

#### その他

○他の基本目標の施策が与える温室効果ガス削減効果について、具体的な数値があれば、より効果的なものになるのではないか。

以上